



おもすの森

発行
大本山 本門寺 根源
山 務 庁
富士宮市北山4965
電話 0544-58-1004

日蓮大聖人 御 聖 訓

『三大秘法稟承事』

(聖寿六十歳 弘安四年)

今日蓮が時盛にこの法門
広宣流布するなり。予年来
(よとしごろ)己心(こしん)
に秘すといえども、この法
門を書き付けて留め置かず
んば、門家の遺弟等定めて
無慈悲の讒言(ざんげん)を
加うべし。その後は何と悔
ゆとも叶うまじきと存ずる
間貴辺に対し書き送り候。
一見の後秘して他見あるべ
からず。口外も詮なし。
法華経を諸仏出世の一大
事と説かせ給いて候は、こ
の三大秘法を含めたる経に
て渡らせ給えばなり。秘す
べし秘すべし。

弘安四年卯月八日
大田金吾殿 御返事

この三大秘法を含めたる経にて渡らせ給え

現代語訳

いま日蓮の末法の時代には
さかんにこの寿量品に示され
る事の一念三千の法門を広く
世に布教するのである。私は
いままでこの三大秘法の法門
を心の中に秘めておいたが、
この法門を書き記しておかな
ければ、死後にあつては門弟
たちが私を無慈悲のものと恨
むであろう。その時になつて
後悔しても、どうしようもな
いことだと思われるので、貴
殿に書き送るのである。この
書は一度御覧になつた後は、
秘蔵して人に見せてはならな
いし、この法門をみだりに口
にしてもならない。

方便品で法華経こそが諸仏
が世におでましになつた最大
の目的であると説かれていた
のは、この三大秘法を秘蔵し
た経典だからなのである。秘
すべきである。

弘安四年卯月(四月)八日
大田(四条)金吾殿 御返事

※参考：『昭和定本』

御案内

本化垂迹天照太神祭

当山年中行事・「垂迹祭」を
左記の通り厳修致します
是非御参拝下さい

日時 四月二十九日

(昭和の日)

午前十時より

場所 本門寺 垂迹堂



当日は恒例となります
重須孝行太鼓保存会の奉
納太鼓がございます



本門寺堀を活用した

第二の生命線(電力)
小水力発電所記念式典

三月二十三日「しずぎんアーク エナジーパーク 家康公用水発電所 お披露目会」があり、来賓として貫首猊下ご名代で鈴木春雄執事長が列席され、発電所に活用される「北山用水(本門寺堀)」の歴史について説明がなされました。又、重須孝行太鼓による演奏もありました。午後からは、本堂において徳川軍の陣中守護として掲げられた「鉄砲御本尊」の特別奉奠がされ、佐野湛要布教部長より拝観者に向けて説明がなされました。

左下の白い建物が発電所



写真上 当日は地元ラジオ局が中継放送
写真左 佐野布教部長が御本尊の解説



祝辞を述べる鈴木執事長



リニューアルした小水力発電所

祝 辞

この度「家康公用水発電所のリニューアル」に際しまして、用水発祥の地である本門寺を代表致しまして一言祝辞を述べさせていただきます。

本事業の運営会社・東京発電株式会社様、殊に三島事業所の皆様、そしてその趣旨に賛同頂きました株式会社静岡銀行様におかれましては、本日の「しずぎんアークエナジーパーク家康公用水発電所」リニューアル完成並びに記念式典の開催、誠にありがとうございます。

今回、当山とも協業し地域社会と連携した式典を開催して頂くことは、東京発電様の、本門寺堀用水と本門寺の歴史を十分ご理解頂き、そしてこの北山の地に敬意を払ってくださっていることに感謝致します。

東京発電様は、昭和三年創業され、発足当初から水力発電に携わってこられ、現在は東京電力のグループ企業となり、中小の水力発電としては、日本一の会社であります。

そして皆様の記憶に新しいところで、この本門寺堀・通称北山用水が、富士宮市の発願により、昨年十一月に世界かんがい施設遺産に登録され、日本を代表する用水となったことは大変喜ばしいことです。

ここで少し本門寺堀用水の歴史に触れさせていただきます。戦国時代この地域は、しばしば甲斐国武田軍の侵略を受け大きな被害を受けていました。

そこで織田信長公の命を受けた徳川家康公は武田軍討伐の途に本門寺に立ち寄り、武運長久を御祈願しました。時の貫首・第九世日出上人は、陣中守護として御霊宝である日蓮大聖人御真筆の大切な御本尊を貸し与えました。

この戦において、武田勢の鉄砲の弾が御本尊に当たり、家康公は一命を取り留め、戦に勝利しました。この靈験あらたかな御本尊に畏敬の念を抱き、返納と同時に日出上人の願いを聞き入れてくださいました。

当時この地域では水不足に悩み、水田稲作も当然のことながら苦難してきました。日出上人はこの状況を憂い、地域住民を救いたいとの一心から、北山の地に水を引いて欲しいと訴え、家康公はこの本門寺堀の大事業をわずか四か月足らずで完成させました。

ちなみに、このいわれのある陣中守護の御本尊は後に「鉄砲御本尊」と称され、篤い信仰を集めることとなりました。

本日午後から、本門寺において特別拝観を致しますので、是非この機会にご参拝頂きたいと思っております。

この本門寺堀が引かれて已来四百年余り、先師各位の護持丹精をもって用水は今日まで整備・保全され、市内広域まで拡張・延伸されています。生活用水・農業用水・防火用水等、地域住民の生活向上に貢献してきました。

そののみならず、小水力発電という先端技術を活用し、お堀を流れる水が、電気・エネルギーに変わり、市民生活に重要な役割を果たしていることを思うと、仏祖先師のご加護のたまものであると報恩感謝の念に堪えません。

水は生命の源でございます。今日では上水道が整備され、いつでも手軽に水が飲め使えるようになりました。しかしながら、元旦に起きた能登半島大地震では、水道管が断裂して断水が三か月近く経ってもまだ解消されていません。被災者の方々が大変な思いをなさっていることに心を痛めております。

近年、東海沖地震を想定するこの地域としては、本門寺堀用水が、命の水を運ぶライフラインとして機能し、さらに水力発電を通して、災害時に電力を供給できるという意味からも、本事業は大変意義ある試みであると感じております。被災現場の現実を直視し、命の水の大切さと、水が作り出す電力という生活に欠かせないインフラとして、本門寺堀用水の重要性を改めて考えるところでございます。

結びに、本日お集りの関係各位の益々のご発展をご祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。南無妙法蓮華經

令和六年三月二十三日
日蓮宗 大本山法華本門寺根源
第四十九世 旭 日重

法華經に学ぶ 第二十一回

布教伝道部 浦野 弘正

三界とは③無色界

前回は「三界」の中の「色界」までのお話で終わりました。今回はさらに上の「無色界」のお話からです。無色界は、物質的なものから完全に離れた衆生が住む世界とされます。欲望も物質的条件も超越し、精神的条件のみを有する生物が住む世界で、欲界と色界よりも上位にあり、天界の最上層に位置しているとされています。無色界は空間を超越した世界とされていて、厳密には色（物質、かたち）を持ちません。ですから実際に色界の上方に存在しているわけではないのですが、便宜上、三界の中では「一番上の世界」と位置付けられています。

この「三界」という言葉も、御経文の中に多く出てきますので、よく覚えておいてください。

声聞の修行段階

さて、声聞の話に戻ります。先に説明した声聞の、須陀洹から阿羅漢までの四つの段階も御経文に出てきますので、ここでまとめて説明しておきます。

須陀洹

最初の「須陀洹」は、声聞の中でも一番下の段階にあたります。「預流果」ともいい、三界に存在する煩惱を断じて、絶え間ない苦

しみの続く「地獄」、飢えに苦しむ「餓鬼」、貪り続ける「畜生」の、三つの世界（これを「三悪道（さんあくどう、さんなくどう）」といいます）に墮ちることがなくなる状態をいいます。しかし、欲界の中の人界と天界の間を、最大で七回輪廻するという点で、声聞の修行の達成の度合いでは一番下に位置付けられます。

斯陀含

次の「斯陀含」は、須陀洹の一つ上の段階で「一來果」ともいいます。貪りの心である「貪欲」、瞋りの心である「瞋恚」、物事をきちんと見ることができないために起こる愚かな心「愚癡」、この三つを合わせて「貪・瞋・癡」といい、煩惱の中でも極めて根源的なものとされます。根源的な煩惱であることから、毒に見立てて「三毒」ともいいます。この三毒を断ち切つてはいないものの、「薄らいだ」修行者を斯陀含といえます。この三毒が薄まると「【一】度だけ人の世界に【来】て、その後には解脱する」といわれることから「一來果」といいます。

阿那含

三番目の「阿那含」は斯陀含の上の段階に当たります。斯陀含までの位では断ち切るこ

とがなくなった修行者であることから「不還果」ともいいます。

斯陀含の段階では薄らいだだけであつた「三毒」を、完全に断ち切つた状態で、阿羅漢に入る前の段階です。

阿羅漢

さて、御経文に出てくる阿羅漢は、声聞の中でも阿那含の上、つまり一番上の状態を指します。貪・瞋・癡の三毒を断ち切つた上で、さらに三界の中の「色界と無色界」に対する「慢」をも断ち、頭に血が上る状態である「瞋恚」をも超越して深く落ち着き、全ての煩惱の原因である「無明」からも解放された状態にあることをいいます。

「無明」とは真理に暗い状態、つまり仏さまのお覚りを弁えていないことをいいますので、「無明から解放されている」ということは、輪廻から完全に解脱し、仏さまのお覚りにほぼ近い状態を得ている、ということになります。この「阿羅漢」という声聞の状態は、迹門の大事なテーマ「二乗作仏」において大事な役割を担います。

阿羅漢と須陀洹・斯陀含・阿那含

阿羅漢と他の三つの位には決定的な違いがあります。須陀洹・斯陀含・阿那含の修行者達にはまだ学ぶべきものが残っており、それに対して阿羅漢は学ぶべきものが無くなった状態にある、ということなのです。（続く）

『本門要軌』を読む 第二十回
布教伝道部執事 阿部 和正

前回は『御義口伝』について、現今の宗門や最新の学術的見解を御紹介しました。一方で本門寺及び當法縁に於ける見解は、第四十八世日諄貫首猊下が著書に詳しく述べられておりますので以下に抜粋し紹介します。「富士の文献といえ、その殆どが後世における成立または後人の加筆偽書せられた信憑性の置けないものとの定評が流れている。『御義口伝』においてもその例外ではない。最も身近なわが教団の中においても、「上人の真撰として疑わしい」との説が一部に伝えられていると聞く。まことに遺憾の極みであり、浅識・師敵対の許し難い謗法行為といわざるを得ない。(略)日興上人の富士の立義は、そのまま日蓮聖人の実践提示の教えであることを学び信じてきた立場からすると、或は偽書偽撰の烙印を押されようと、その述べられている内容がまさしく当を得たものである場合は、堂々とそれを引用し生かすことは差問題ないものではあるまいか。『御義口伝』の「二十八品悉く南無妙法蓮華經の事」の結文にしても、古来幾多の先師がこれを取り上げて、開經偈文とし、唱題成仏義として引用してきたもので、いわば要中の要であり肝心の要で、末法今時における布教伝

道の要文として、卓越した賞揚すべき金言であり、疑義をはさむところは微塵もない。殊に現在、当宗においては「お題目総弘通」の運動を展開中であるからには、上行所伝の題目ならでは得道を期せられず、広宣流布は名目だけに終わるのではあるまいか。日蓮正宗や創価学会などの口述によって、歪められた富士の伝統、本化別頭の信仰を、今こそ本然の姿に取り戻して、それを正しく後世に伝えなければならぬ。言いふらされる学識者等の、単なる学説に振り回されることなく、日興上人による本化直参の行学に励み、自己折伏に努め純正日蓮主義に徹することを取って呼びかけたいのである。」(『日興上人の風光』一〇三―一〇四頁)又、旧本門宗時代の「本門宗宗旨」には、正依の釈書の一つに挙げられ、古来より御遺文と並び重要視されてきた宗典です。

第七 本宗ノ依經 宗典 釈書左ノ如シ

經典正依 妙法蓮華經(八卷)

傍依 無量義經・觀普賢經(各一卷)

釈書正依 高祖御遺文

註法華經(要法寺蔵版)

御義口伝(要法寺蔵版)

御講聞書(同上)

傍依 法華玄義・同文句・魔訶止觀(各本末)

今日の文献学・学術的な諸研究では、當書を宗祖講述・開山筆録ではない後世の成立、偽撰文書等の見解が出されており、此等の見解を明瞭に覆す論述は管見の限り出ておりません。しかし乍ら日諄貫首猊下の教示の通り、當書に述べられる内容は、末法今時における布教伝道の要文、卓越した賞揚すべき金言であります。本門寺では今日も、日々の勤行や法要における要文として欠かさずに読誦されております。これを示す証として、日蓮宗の宗要を定めた『宗義大綱』に於て、「1宗義の体系」中の「起・顯・竟の法門」(『宗義大綱読本』二八頁)、「3三秘の意義」中の「三大秘法の開出」(『宗義大綱読本』七五頁)いずれも日蓮宗の宗義を構成する上で重要な用語ですが、『御義口伝』を原拠としております。「惣じて妙法蓮華經を上行菩薩に付嘱したまふ事は、宝塔品の時事起り、寿量品の時事顯れ、神力属累の時事竟る也」(定本二六八―二六九頁)。「結要五字の付属を宣べ玉ふ時、宝塔品に事起り(略)涌出・寿量に事顯れ、神力属累に事竟る也」(定本二七〇―二七一頁)。「戒定慧の三学は寿量品の事の三大秘法是也」(定本二六七―二六八頁)。今日の宗義にも間違いない影響を及ぼしています。

(続く)

四月二十八日は、「立教開宗会」という御聖日です。

承応元(一二二二)年二月十六日、安房小湊(現在の千葉県鴨川市)にお生まれになった日蓮大聖人は、数え十歳のころになると、幼いながら、当時の厳しい世情に心を痛められ、「世に經典は数あれど、お釈迦様の真意が説かれた經典は何なのか、どの教之に依れば私たちがは幸せになれるのか」と疑問を覚え、出家を志されました。天福元(一二三三)年、清澄山の清澄寺への入門を許されたのが御年十二歳の時。名前を「善日磨」から「薬王磨」と改められました。四年間の勉学を経て、剃髪し得度、「是聖房蓮長」と更に名前を改められ、正式に僧侶としての道を歩まれ始めたのが嘉禎三(一二三七)年、御年十六歳の時です。

それからはより一層学問に励み、清澄寺内のあらゆる書物を読み尽くされますが、清澄寺所蔵のお經典では、大聖人の疑問は解決されませんでした。

清澄寺を出て、鎌倉、比叡山、奈良と、更に御修行を重ねること足掛

立教開宗会

け十六年、ついに、「お釈迦様の真意は法華經にあり、南無妙法蓮華經のお題目こそ、私たちが救われる唯一の道」との結論に達せられます。そして建長五(一二五三)年に清澄寺に戻り、世界中にお題目を弘める決心をなされます。三週間の祈願修行を終えた四月二十八日の未明、境内地の中の「旭が森」と呼ばれる場所へ赴かれ、太平洋から昇る朝日に向かって、お題目をゆつくりと十遍ほど御唱えになられ、「我、日本の柱とならん。我、日本の眼目とならん。我、日本の大船とならん」と、その決意を確固たるものにされ、名前も「日蓮」と改められました。



清澄寺の旭が森から見る朝日(鴨川市HPより)

4月28日は

この日を以て、日蓮宗が生まれたので、「立教開宗会」と呼んで、清澄寺を始め各地の寺院で、報恩感謝の法要が営まれます。また、これに因んで、日蓮宗では毎月二十八日を「いのりの日」としています。

(文責 布教伝道部 浦野弘正)

塔中大乗坊 継承奉告式

三月七日、塔中大乗坊・新住職小野恭敬上人の入寺式に先立ち、本堂にて貫首猊下御導師の下、継承認証式が奉修されました。

小野上人と共に総代檀信徒及び寺族が登詣し、貫首猊下より大乗坊住職としての允許がなされました。

生御影尊の御前において新住職は御本山及び大乗坊のお給仕を誓いました。

今後とも大乗坊興隆と檀信徒の教化に邁進されることをお祈り申し上げます。



尚、小野上人は大乗坊住職就任に伴い、三月末をもって本山山務員を退職致しましたが、塔中住職としての職務を果たし、今後とも本山行事等に出仕し、宿日直等でお給仕なされます。



大乗坊外観

塔中大乗坊は、博明院日泉上人(西之坊先代住職 藤先博明上人)が再興した塔中寺院です。本門寺参道・西之坊の南に位置しています。

清掃奉仕 御礼

執事長 鈴木 春雄

令和六年初回となる本門寺
清掃奉仕を、春彼岸前の三月
十一日に実施致しました。塔
中末寺の檀信徒合わせて四十
名近い方々がお集まり下さり
ました。御廟所に続く杉林に
堆積する落葉や折れ枝を集め
て下さり、本堂前はもちろ
ん、垂迹堂・重須太神・御廟
所・鎮魂廟と、隅々まで清掃
して頂きました。

今回はより多くの方に御参
加頂きましたので、諸堂の屋
根に蓄積した枝葉も併せて撤
去することでできました。ご奉
仕頂き、誠にありがとうございました。

同日また、山林農地部の石
川達三様は重機を搬入して頂
き、山積みの落ち葉の整地や
穴掘り等



人力では
困難な作
業を実施
して頂き
ました。

諸堂内
では、重
須婦人
会・寺庭婦人の皆様方が月二
回行っている清掃とお花替え
をして頂きました。心より御
礼申し上げます。



奉仕者御芳名

敬称略 順不同

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 渡井 将文 | 石川 茂樹 | 宮島 三男 | 志邨 和利 | 石川 達三 | 渡辺 一雄 | 小林 國通 | 石川 元彦 | 渡邊 豊 | 松原 勝政 | 藤田 將二 | 渡邊 和正 | 萩 由利子 | 藤田 淳 | 松原 和代 | 渡辺真由美 | 野村 恵利 | 久野 康子 | 望月 正則 | 富永 政則 | 石川 昌之 | 内藤 俊彦 | 渡辺 京子 | 齊藤 繁美 | 藤田 欣大 | |
| 本山 | 養仙坊 | 養仙坊 | 養仙坊 | 養仙坊 | 養仙坊 | 養仙坊 | 養仙坊 | 養仙坊 | 養運坊 | 養運坊 | 養運坊 | 養運坊 | 養運坊 | 養運坊 | 養運坊 | 養運坊 | 東陽坊 | 東陽坊 | 東陽坊 | 東陽坊 | 東陽坊 | 東陽坊 | 蓮行坊 | 蓮行坊 | 西之坊 |



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 石川 香 | 遠藤 洋子 | 鈴木世記子 | 佐野 昌彦 | 佐野 国代 | 石川 洋子 | 望月将一郎 | 佐野 公康 | 渡井 英機 | 坪井 正徳 | 平沢 計子 | 小川 知洋 | 小川美智子 | 榎本 愛子 | 以上 | 大乘坊 | 本光寺 | 本光寺 | 本光寺 | 本光寺 | 本光寺 | 本光寺 | 本光寺 | 本光寺 | 本光寺 | 法華寺 | 三十九名 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|

新寂回向事務局より

御本堂におきまして、各御霊位の
御回向を申し上げます。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|---------|-------|----------|-------|----------|-------|---------|-------|----------|-------|----------|-------|---------|-------|---------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|---------|-------|----------|-------|----------|
| 蓮行坊檀徒 | 故秋山 豊子 様 | 蓮行坊檀徒 | 故桑原 眞之 様 | 西之坊檀徒 | 故小林 富子 様 | 西之坊檀徒 | 故後藤 幸子 様 | 西之坊檀徒 | 故朝川 久治 様 | 正林寺檀徒 | 故渡邊 彌 様 | 正林寺檀徒 | 故宮田 秀子 様 | 正林寺檀徒 | 故山田 富美江様 | 正林寺檀徒 | 故土橋 充 様 | 正林寺檀徒 | 故渡邊 哲康 様 | 本光寺檀徒 | 故伏見 昭次 様 | 本光寺檀徒 | 故伊東 昇 様 | 本光寺檀徒 | 故望月 篤 様 | 本光寺檀徒 | 故深澤 順子 様 | 本光寺檀徒 | 故宮澤 正文 様 | 本光寺檀徒 | 故丸山 恵子 様 | 養運坊檀徒 | 故袴田 いく枝様 | 養運坊檀徒 | 故望月 和子 様 | 養運坊檀徒 | 故渡井 きみ子様 | 久成寺檀徒 | 故土屋 允子 様 | 蓮妙寺檀徒 | 故宮代 茂 様 | 西之坊檀徒 | 故野田 武弘 様 | 西之坊檀徒 | 故植松 委都乃様 |
|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|---------|-------|----------|-------|----------|-------|---------|-------|----------|-------|----------|-------|---------|-------|---------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|---------|-------|----------|-------|----------|

三月末日迄 申込み・申請順
ご冥福をお祈り申し上げます

お悔やみ
当山本願人である故清水
裕氏(山梨正法寺檀徒)が本
年二月二十八日ご逝去なさ
れました。行年は九十六歳
でした。
本山に対し、長年に亘る
物心両面に於ける御丹精に感
謝申し上げますと共に、衷心
よりご冥福をお祈り申し上
げます。

本門寺の主な予定

- 令和六年四月
- 十二日 重須婦人会清掃奉仕
- 十三日 御霊宝御風入会
- 十七日 第五区区内会
- 十九日 法縁五部支部総会
- 二十六日 重須婦人会清掃奉仕
- 二十九日 垂迹祭

丹精者御芳名

- 本山護持協力金
- 久成寺 旭 英樹上人
- 香華・その他 供養
- 市内北山 星谷とみ子様
- 諸堂・境内清掃・作業奉仕
- 本門寺内 重須婦人会様
- 本山塔中 寺庭婦人様
- 本門寺内 石川由緒家様
- 市内北山 望月 正見 様
- 静岡市 紺文シルク様
- 謹んで御礼申し上げます